



宮司づしス 九十四号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十六年四月十五日

◇宮司の柴田です。 宮司に就任して丸一年を迎えた平成十八年六月に、一念発起(いちねんほつき)して毎月一回の発行を始めた「宮司プレス」、百号を目前(もくぜん)にして、危機を迎えています。 発行以来、初めてのことでありますが、現在、二ヶ月遅れです。 お待たせいたしました、宮司プレス第九十四号の発行であります。 なんとか、この周回(しゅうかい)遅れの軌道(きどう)を元に戻さねばと、編集の速度を早めている昨今です。

◇さて、寒の戻りだったのでどうか、急に冷え込みました。 冷たい雨に、満開だった境内の桜も、とうとう、葉桜になりました。 次なる季節のために、惜しみなく花びらを散らす桜折節(おりふし)の移ろいのためには必要不可欠な自己犠牲(じこぎせい)なのであります。 私どもは、いつまでも散らさずに、美しく咲いてほしいと、散りゆく花びらに「儂(はかない)い人生」を重ねり合わせ、移りゆく季節を惜しみますよね。 実は、その惜しむ気持ちこそ、「仁(じん)」でありまして、優しさ思いやりです。 そして、桜の花びらの潔(いさぎよ)

さが、「義(ぎ)」でありまして、相手のために自らを犠牲にする心映(こころばえ)えであります。 まさに、季節の移ろいは、「仁義(じんぎ)」で、成り立っているのですね。 桜の花びらが散らなければ、葉は、新緑にならず、夏は来ませんよね。 その新緑が、やがて色づかなければ秋は来ませんし、葉をも散らさなければ冬は来ないのであります。 いよいよ今月一日から、消費税が八パーセントになりました。 少なからず私どもの生活にも支障をきたしましょう。 されど、今年の冬は、殊(こと)の外(ほか)寒さ厳しきものがありました。 まさに「休眠打破(きゆうみんだは)」でありまして、寒さが厳しければ厳しいほど、例年とかわりなく美しい花をつけた、桜の花にあやからねばなりませんよね。

◇さて、日本人は、宗教に対して無頓着(むとんちゃく)であると言われますが、それは、クリスマスケーキを食べて、除夜の鐘を聞き、神社に初詣(はつもうで)をするという年末の行事にも象徴されていますよね。 知らず知らずの内に、他宗教の行事を日本的な行事に仕立て

上げているわけです。 それは、宗教に対して無頓着というよりは、寛容(かんよう)だともいえるでしょう。 私は、宗教とは、有限(ゆうげん)の生を、無限(むげん)の生に変えしめるものだと考えています。 人間の死亡率は百パーセント、遅かれ早かれ、必ず死を迎えます。 限りがあるのですね、悲しいかな。 その有限の死を永遠の命に変える事が出来るのが宗教で、いわゆる、どの宗教で死者を弔うか、そして、祖先の御霊(みたま)として、どのような宗教でお慰びするか。 それが、宗教であろうと思うのですね。 冠婚葬祭(かんこんそうさい)ということば、ご存じですか。「冠」は、成人式、お陰で私の長女も成人式を迎えました、余談ですが。「婚」は、結婚式、「葬」は、死者を弔(とむらう)う儀式、いずれも人生で大切な儀礼ですよね。 誤解されているのが、「祭」であります。 村の鎮守の神様のお祭りではありません。 実は、亡くなった方を偲ぶ儀式でありまして、仏教でいうところの法要でありますね。 そう考えますとですね、宗教は、読んで字のごとく、家が示す教えでありまして、その家が死者を弔(とむら)うための儀式を行い、さらに、死の悲しみからの回復を図りつつ、これを、グリーン ケア(悲嘆からの回復)といいますが、偲びつつですね、定まった日数(ひかず)の儀式を行うやり方が、実

は、その家の宗教なのです。日本人は、そのことが当たり前のように行われていて、宗教というものを意識してこなかったのでしょうか。

◇宗教を大きく分けると、世界宗教（せかいしゅうきょう）と民族宗教（みんぞくしゅうきょう）に分けられます。日常生活を通して自然発生的に成立し、祭典や儀礼を重視する信仰で、個人よりも共同体との利益を優先し、死後の世界よりも現実世界を重視するのが、民族宗教です。世界宗教は、このすべて逆の特色をもっていますね。死後の世界である、天国・浄土

（じょうど）を重視するキリスト教やイスラム教、さらに仏教などであります。神社神道は、日本人の宗教と言っても過言（かごん）ではありません。我々の遠い祖先は、氏神様の祭典に、まず、感謝の誠を捧げ、さらなる守護（しゅご）を祈りました。祈りは、誓いであろうと思うのですね。運命共同体として生活していくうえで、規範（きはん）や生活態度、いわゆる「理想的な生活、理想的なたちふるまい」を神様にお約束し、約束を違えないよう努力し、人の力の及ばないところは、必ずお守り下さることを信じて安らかな気持ちで生活をする、まさに、敬神生活なのです。その敬神生活で、一番大切なのが「神信心（かみしんじん）」でありまして、日本人の勇気ではないでしょうか。これからも、敬神生活をお心がけくださいまし

て、明るく豊かな日々でありますように、心からお祈り申し上げます。

◇三月の宮司の行事会議等活動報告

▼月次祭 *三月一日、十五日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 *三月十日

▼恵比寿神社例祭 *三月十五日

▼増井常任総代退任奉告祭

▼祖霊祭 *三月二十一日

▼朝粥会 *三月二十一日

◇三月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇国宝大神社展へ当宮関係者五十九名

参加 *三月二日

◇神宮参宮旅行に当宮関係者十二名参加

*三月七日〜九日



▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県教誨師会 *三月十三日

◇下関支部研修 *三月十九日

◇下関支部施設慰問 *三月二十四日

◇下関支部三夜会 *三月二十五日

◇講演講師養成研修会 *三月二十六日

◇祭式研修会 *三月二十六日〜二十七日

◇教学研究大会 *三月二十七日

◇赤間神宮宮司就任退任式

*三月二十九日

◇遷宮奉賛会下関支部解散式

*三月二十一日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *三月五日

▼教誨（きょうかい）活動

◇美祢社会復帰促進センター

◇集合教誨、男子 *三月十日

▼講演活動

◇下関市中央倫理法人会経営者モーニングセミナー「則天去私の心で神喜地喜人

喜でありますように」 *三月十三日

▼その他

◇皇学館大学卒業式出席 *三月十八日

◇平濱八幡宮（島根県松江市）参拝

◇長男が、三月二十五日より奉職（ほうしよく）させていただく神社へ参

拝、ならびに同宮青木宮司へ挨拶

◇神道会第二十三回定例総会

*三月二十一日